

海峡 の 北九州

海と陸の交差点

北九州市は五市対等合併で成立したことで知られ、現在でも市内の各地域の個性が光る、全国でもユニークな都市です。なぜこのように独立性の高い地区が非常に近い距離に都市として成立したのか、その背景を考えると、関門海峡と洞海湾という複雑な地形が、交通や防衛の要衝となる利点と、潮流の激しきや平地の乏しさのために都市を建設しづらいという弱点の、両方を生んでいたことがわかってきます。そして、この相反する条件のもと、各時代にその当時の需要や技術力に応じて都市域が形成され、それらがやがて水陸の交通路で結ばれて、現在の都市域が生まれていった過程が見えてきます。

この展示では、関門海峡の対岸にあり、北九州地域とは切り離せない関係にある下関を含め、関門海峡周辺の水域に面する地区の成立過程を、古地図や古写真を手掛かりに振り返ります。そして、世界の海峡都市のいくつかとも比較していきます。

展示内容は、個々の地域についての多くの記録や先行研究を参考にしながら、西日本工業大学デザイン学部建築学科の3年生が作成したものです。理解の不十分な点、見落としている点多々あるかと思いますが、この展示が海峡都市としての北九州地域の魅力を考え直すきっかけになればよいと考えています。

1 結ばれゆく海峡

海峡沿いの地区が徐々に結びつきを深め、ひとつの海峡都市圏となっていく過程を確認します。



2 まちのうつりかわり

北九州地域の各地区のなりたちを振り返り、それぞれのまちの個性の背景を探ります。

小倉



門司



下関



八幡



黒崎



戸畑



若松



3 世界の海峡都市

世界のさまざまな海峡都市と比較して、北九州との共通点と違いを見ていきます。

イスタンブール



シンガポール



サンフランシスコ

